

# 富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

## 2024年（令和6年）10月から12月

- 1 調査期間 2024年10月～2月（第3四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

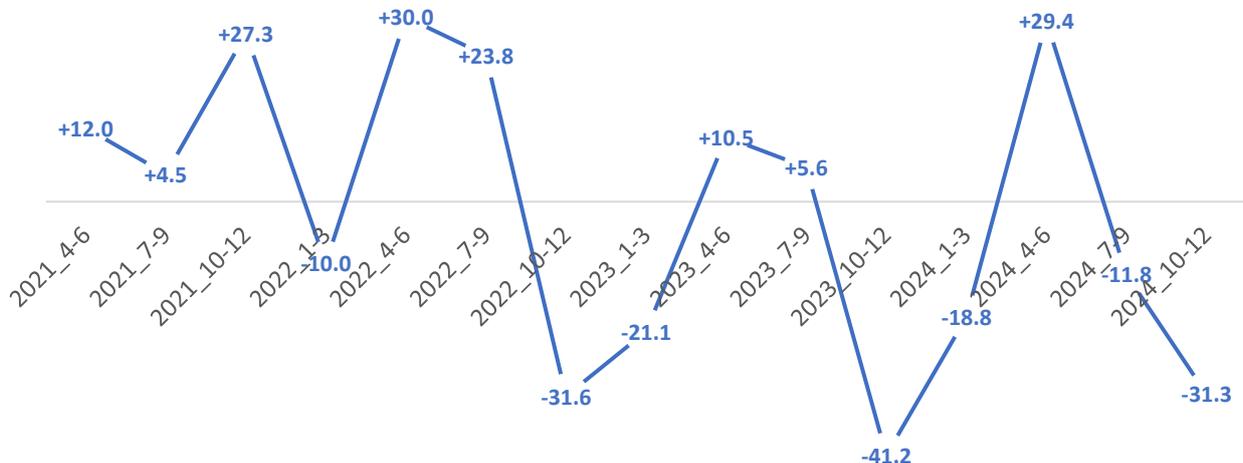
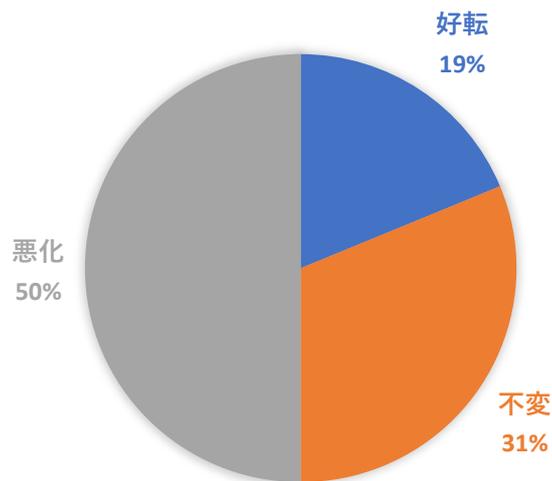
製造業	9社
建設業	2社
飲食業	2社
小売業	1社
観光業	2社
計	16社
- 4 調査項目
  - ① 3か月前と比べて
  - ② 前年同期と比べて
  - ③ 3か月後の見通し※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

Volume 1 5

主管 ふじみまち産業振興センター

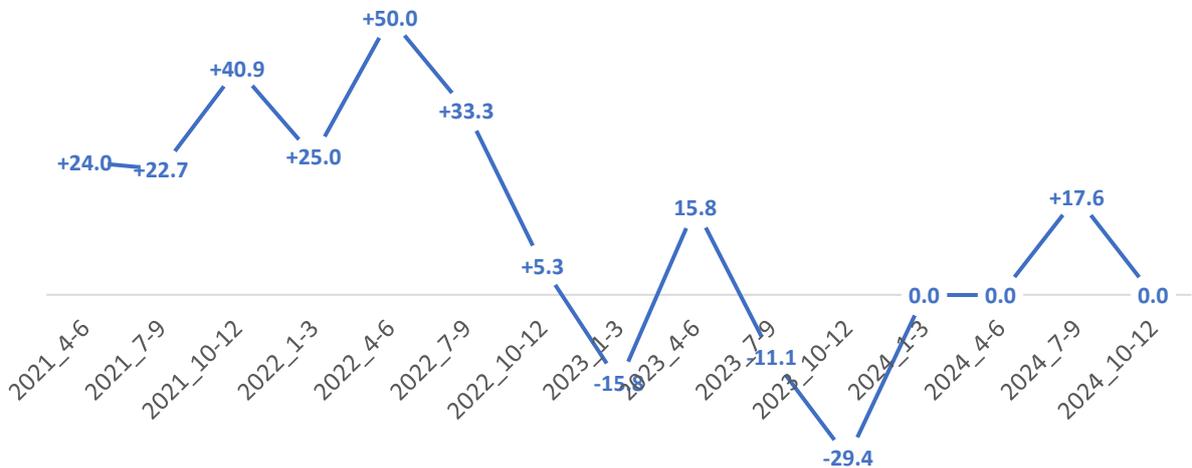
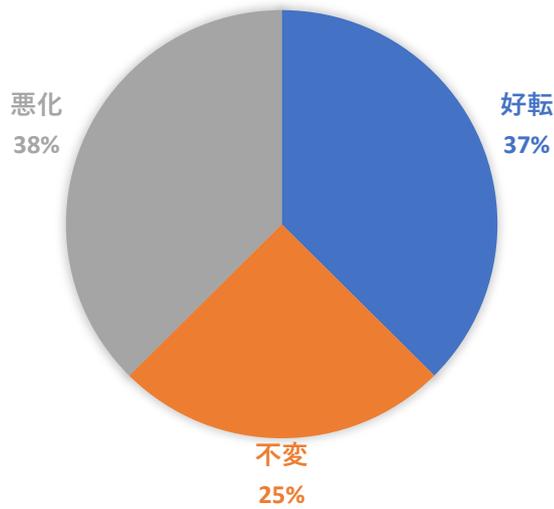
<調査項目① 3か月前と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	3	5	8	16		↘
	構成比	18.8%	31.3%	50.0%		-31.3	
製造業	実数	1	4	4	9		→
	構成比	11.1%	44.4%	44.4%		-33.3	
建設業	実数	1	1	0	2		↗
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
小売業	実数	1	0	0	1		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	0	0	2	2		↘
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	
観光業	実数	0	0	2	2		↘
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	



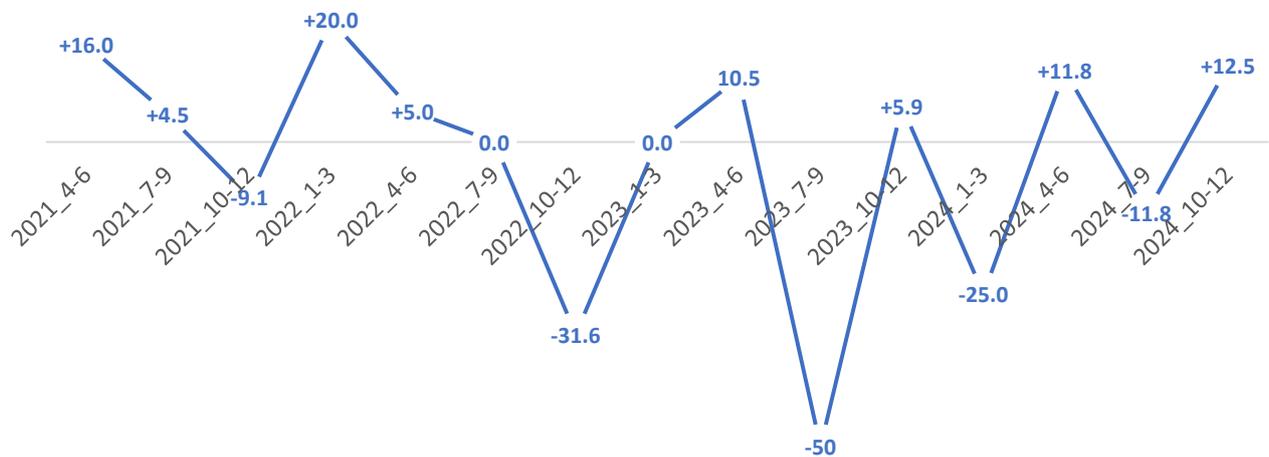
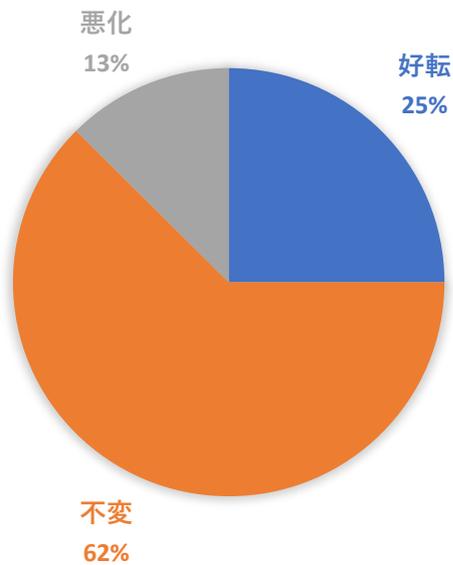
<調査項目② 前年同期と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	6	4	6	16		↘
	構成比	37.5%	25.0%	37.5%		0.0	
製造業	実数	3	3	3	9		↗
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	
建設業	実数	1	1	0	2		↘
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
小売業	実数	1	0	0	1		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	1	0	1	2		↗
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
観光業	実数	0	0	2	2		↘
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	



<調査項目③ 3か月後の見通し>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	4	10	2	16		▲
	構成比	25.0%	62.5%	12.5%		+12.5	
製造業	実数	1	7	1	9		▲
	構成比	11.1%	77.8%	11.1%		0.0	
建設業	実数	1	1	0	2		▲
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
小売業	実数	1	0	0	1		▲
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	1	1	0	2		▲
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	0	1	1	2		▼
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	



<経営者の眼(見方)>

業種	コメント欄
製造業	新規取引先と交渉中、期待をしているが不透明
製造業	景気の悪い話しか聞かないものの、客先の中でも動く機種・動かない機種があり、動く機種にマッチしている会社は動きがある模様。
製造業	アメリカ大統領の動向を注視する必要がある。
観光業	節約傾向なのか人の動きが悪い気がします。
建設業	建築コストの上昇や物価上昇による家計の買え控えを背景とする受注の悪さはほぼ一巡したと見られ、徐々に見積依頼や問い合わせが増えつつあるが、相変わらずの円安による輸入材木の再値上げや米国のトランプ大統領返り咲きによる物価・為替への影響がどのようなものになるのか見通すことが難しい。
製造業	現状計画通り推移していますが、今後については世界情勢等の変化による影響があるかもしれないと不透明感が増えています。
飲食業	年末の予約が前年よりも少なく売上減となり、また、材料費等の高騰により利益が圧縮されました。今後も材料費等の上昇により厳しい状況が続くと予想されます。
製造業	主要顧客の受注が減少しております。理由はエンドマーケットの在庫調整との説明を受けていますが、実態は不明です。昨年までは他の顧客の受注が堅調だったため、ある程度の埋め合わせにはなってきましたが、それもここに来て大分減少しております。 先々の見通しも、顧客からはこのままの状態がしばらく続きそうだとの説明を受けています。 特定の分野の不調というより、一部の好調業種を除いて、総じて景況が悪化しているのかもしれないと見ます。
製造業	既存分野は良くて横ばい。新分野（開発案件）の伸張に期待したい。
飲食業	例年よりも気温が暖かい日が多かったからか、昨年よりも来客数、売り上げ共に増加した。スキー場の300円券の利用者が以前よりも少なく感じるが、客足の遠のく1月から3月の集客につながる周遊券の実施は大変ありがたいです。
観光業	スキー目的の客層が節約目的なのか日帰りか素泊まりばかりになっている。スキー以外の冬季レジャーがなければ今後は冬季休業しざるを得なくなるだろう。 不景気末期の典型的な「安い物しか売れない」フェーズになりつつある。薄利多売をするには運営側の体力が足りないので諸々厳しい。
製造業	政治的なアメリカの動向に影響ある為、不明確である。
建設業	3月までに仕事が終わってしまうとその後の受注があるか心配